

登場人物の関係を整理しよう

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(伊藤遊『ユウキ』より)

----- 本 文 -----

ハートを抱いた天使をはさんで、ふたりの少年のカードがつながった。カードの周囲には、ある法則にしたがうと読める暗号が書かれている。その法則というのは、三枚を順に一文字ずつ読んでゆくというたわいのないものだったが、三枚がそろわないことには、意味がわからなかったのだ。

この日をずっと待っていた。いいや、ほんとうは忘れかけていたんだ。でも、やっぱり心のどこかで待っていたんだと思う。おれと優希は顔を寄せ合って暗号を解読した。謎とか暗号というには、その言葉はずいぶん平凡だったけれど、長いあいだ空白になっていた心の中の一部に、すうっとしみとおっていった。

『ときがわれらをへだててもあいとゆうじょうがあるかぎりいつかまためぐりあうそのひをまてゆうきをむねに』

カードは、全部そろえるとひとつの物語になるのだそう。友だちの友だちのそのまた友だちともカードを交換し合って、コレクションをほぼ完成させたという当時五年生の先輩が言っていた。そのころのおれと祐基には、モンスターたちがどれくらい強くて、どんな必殺技を使うのかということが、何よりも興味のあることだった。暗号の解読にも熱中したけれど、それをつなぎ合わせて物語の全体を知ろうとは思わなかった。一年生のおれたちには、まだむずかしかったのだ。結局、おれはカードを半分も集められなかった。天使とふたりの少年のあいだにどんな関係があるのかは、今となっては知るよしもない。

祐基、おまえはまだこのカードのことを覚えているだろうか。謎はようやく解き明かされたよ。“髪の長い天使”のおかげで。

顔を上げると、天使はおれが何か言うのを待っていた。

「一年生のころ、祐基という名の友だちがいたんだ。島崎祐基っていう、おもしろいやつ」

同じ名前の少女は、かすかにほほえんでうなずいた。

「とても仲がよかったのに、お父さんの転勤でいなくなってしまった。この二枚のカードを残して」

言葉にすると、そのときの納得^{なっとく}できない気持ちが、またよみがえってきた。
膝^{ひざ}に置いた手に、思わず力がこもる。それに気づいたのだろうか。優希がやさしく訂正^{ていせい}した。

「いなくなったりしていないわ。どこかにいるはずよ、この世界のどこかに」
この世界のどこかにいる——。たしかにそうだった。優希の言葉が、暗号文と同じように心にしみてゆく。三枚のカードをもう一度見つめた。
ときがわれらをへだてても——いつかまためぐりあう——。

問

下線部「髪の長い天使」とはだれのことですか。もっとも適当なものを1～4の中から選び、その番号を書きなさい。

- 1 祐基
- 2 優希
- 3 カードの中の天使
- 4 先輩